

# 第1章 住宅の新築を計画されている方のために

## 8 わが家の地震対策

### 3. ブロック塀の地震対策

昭和53年6月12日に発生した宮城県沖地震では、仙台市を中心にブロック塀や石造塀などの倒壊により多くの死者が出ました。そのうえ、倒れた塀が道路をふさぎ、避難や救助・消火活動を妨げることにもなりました。

また、平成7年阪神・淡路大震災、17年の福岡県西方沖地震、28年の熊本地震においても、ブロック塀等の倒壊が多くみられました。

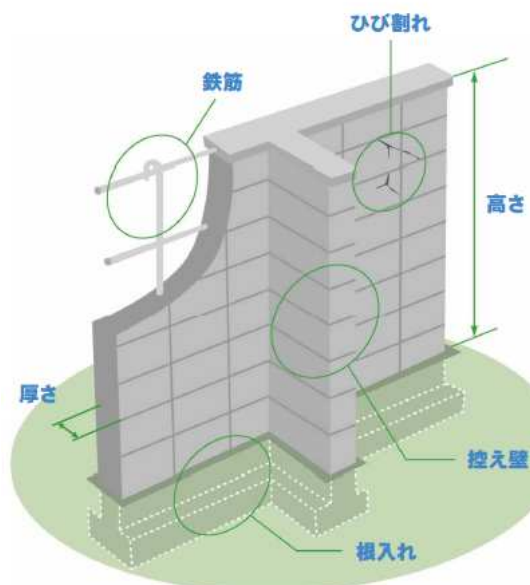
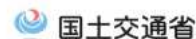
そして平成30年の大阪府北部を震源とする地震では、小学校のプールに設置されていたブロック塀が道路側に倒れ、その下敷きとなり、幼い命（9歳・女児）が犠牲になるという痛ましい事故が発生しました。

「ブロック塀」などと安易に考えることなく、正しい建て方によらないブロック塀などの危険性を十分認識し、このような危険なブロック塀をなくしましょう。

特に、避難路等に面するブロック塀の安全対策工事については、市町の補助制度の活用も可能です。

参考として、点検のチェックポイントを示しますので、まずは、住まいの敷地のブロック塀の安全点検を実施しましょう。

### ブロック塀等の点検のチェックポイント



ブロック塀について、以下の項目を点検し、ひとつでも不適合があれば危険なので改善しましょう。  
まず外観で1～5をチェックし、ひとつでも不適合がある場合や分からないことがあれば、専門家に相談しましょう。

- 1. 塀は高すぎないか  
・塀の高さは地盤から2.2m以下か。
- 2. 塀の厚さは十分か  
・塀の厚さは10cm以上か。（塀の高さが2m超2.2m以下の場合は15cm以上）
- 3. 控え壁はあるか。（塀の高さが1.2m超の場合）  
・塀の長さ3.4m以下ごとに、塀の高さの1/5以上突出した控え壁があるか。
- 4. 基礎があるか  
・コンクリートの基礎があるか。
- 5. 塀は健全か  
・塀に傾き、ひび割れはないか。  
<専門家に相談しましょう>
- 6. 塀に鉄筋が入っているか  
・塀の中に直径9mm以上の鉄筋が、縦横とも80cm間隔以下で配筋されており、縦筋は壁頂部および基礎の横筋に、横筋は縦筋にそれぞれかぎ掛けされているか。  
・基礎の根入れ深さは30cm以上か。（塀の高さが1.2m超の場合）

組積造（れんが造、石造、鉄筋のないブロック造）の塀の場合

- 1. 塀の高さは地盤から1.2m以下か。
- 2. 塀の厚さは十分か。
- 3. 塀の長さ4m以下ごとに、塀の厚さの1.5倍以上突出した控え壁があるか。
- 4. 基礎があるか。
- 5. 塀に傾き、ひび割れはないか。
- 6. 基礎の根入れ深さは20cm以上か。

<専門家に相談しましょう>